

プロジェクト、新たな1ページ

A New Chapter in the History of Projects

2016.7.31 vol.243

高島平プロジェクト 始動！！

Takashimadaira Project Has Started!

text_NAKAMURA/M1

中島直人准教授主導で発足した高島平プロジェクト。6月12日にはそのキックオフイベントとなるワークショップが現地で開催されるなど、次第に動きを見せ始めており、これからの展開が注目されます。中島先生へのインタビューを通じて、新たなプロジェクトの始動を追いました。

>高島平と関わりを持ったきっかけは？

高島平に関わりはじめたのは去年からです。もともと、都市づくりパブリックセンターと日本都市計画学会が事務局をやっているAPS (=Action for Public Spaces) 研究会という会があって、4~5年前から公共空間の活用について勉強していたんですが、APS研のなかでアクションを起こそうということになって、第一弾として、静岡の青葉通りで活動をやっていました。

そのあと、もうちょっと何かやりたいという流れになったときに高島平が出てきたんです。APS研のリーダーで、板橋区長のアドバイザーをしていた都市工の大先輩の小澤さんからの話を受けてのことで、去年の夏頃にAPS研で1回現地を見に行きました。そのときにプロポーザルを作って、板橋区に押しかけたんです。すると板橋区のほうから、じゃあなにかやってくれ、と頼まれました。そして、板橋区が高島平にUDC (=アーバンデザインセンター)をつくらうと考えていたこともあって、UDC設立のことも含めていると相談を受けたんですが、UDCのほうは出口先生に委ねることにして、板橋区が掲げるプロムナード再生のほうは私が中心となってやりますよ、ということになり、「プロムナード勉強会」が発足したのが始まりです。実践をしたかったところにちょうどいい話を頂いたという感じですね。

>プロジェクト化しようと思った理由は？

西台のあたりに住んでいた樋野先生が高島平のことを話したときに、樋野先生も高島平に関わっていて花壇の活性化に取り組んでいるとか、学部生のオムニバス演習で高島平を題材にしていかうかという話を聞いて、高島平を題材にしていろんな人が関わる大きなプロジェクトができるとおもしろいんじゃないかな、と思ったんですね。というのも、今、都市デザイン研と窪田研と出口研と一緒に活動することはあっても、他に研究室の枠を超えて継続的にやるプロジェクトが無い気がしたので、そういうものがつくれるかと思ったんです。

あとは、テーマが都市デザイン研でやってきている歴史的な市街地とはまた異なっていて、なにか新しいことができ

るのではないかという思いもありました。

>プロジェクトの体制について

樋野先生や、樋野先生つながりで高島平に関わっている真鍋先生とも一緒になってこれからプロジェクトをやりたいと思っています。今年のオムニバス演習はその一歩ですね。オムニバス演習では今、いろんな研究室の学生が集まっている視点で高島平のことを勉強していますが、そういった形で連携していければと思います。

>高島平の魅力、今後の展望は？

高島平って、計画的にできているからこそオープンスペースが本当に豊かなんですね。そういうものを活かせる「公共空間からまちを変える」ということができるのではないかなと思います。地元で面白い活動をしている人もいるので、そういう人たちとも一緒にやっていると楽しそうですね。高島平で生まれ育った人の目線で高島平を見ると面白いものがいっぱいあって、そうしたものをみていくと都市のつくられかたとか構想力の話につながっていきそうだと考えています。

高島平と云うとどうしても「団地」とか「高齢化」といったイメージが強いけれども、もっと別の視点でこの地を捉えることができようと思っています。まだまだこれからという段階ですが、夏以降にいろいろと進めていきたいですね。

>最後に、学生に向けてメッセージをお願いします

プロジェクトはなによりもまちのためにやるものですが、最終的にはそれが自分のため、自分の成長につながるものです。プロジェクトばかりやっていると自分の研究が進まないのではと不安になる人もいられるかもしれませんが、プロジェクトを続けていくうちに自分の研究のテーマや、都市に対する問題意識がきつと深まっていくはずなので、恐れずプロジェクトに打ち込んでください。

とはいえ、研究とプロジェクトの「二兎」を追う姿勢も大事ですね。二兎を追うという経験をしないと自分の可能性を狭めることになってしまうので、研究とプロジェクトを両立させてきた人はたくさんいるので、みなさんもぜひそれを目指してください。



APS研が作成したプロポーザル 板橋区作成のランドデザイン

◆取材を終えて◆

なかなか学生が知る事のできない、プロジェクトの立ち上げに至るまでの経緯について詳しく語っていただきました。中島先生、ありがとうございました。(聞き手：M2 中井、M1 田中、M1 中村)

研究室の枠を越えて

高島平には他の研究室の先生方もそれぞれ異なった形で関わっており、既に研究室の枠を越えた連携の動きが出はじめています。高島平と関わりを持っている2名の先生方にコメントを頂きました。



▲学部4年生のオムニバス演習高島平パートの活動風景。夏学期後半のおよそ2か月の間、高島平を題材に調査・提案を行った。
▲6月に高島平で行われたプロムナードWSの様子。東大からは中島先生のほか、各研究室の教員・院生・学部生が参加した。



樋野宏先生

東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻
住宅・都市解析研究室 准教授

身体に不自由がなくても閉じこもりがちな団地の高齢者。その外出を促すため、現在、高島平で2つの企画を動かしています。ひとつは団地内3箇所に設置された共同花壇の活性化、もうひとつは活動量計を配布して、地区別で歩数を競ってもらう企画です。11月に設立されるUDCにも関与する予定です。実は新婚当時この近くに住み、NPOの立場でまちづくり活動を行っていました。その経験とつながりを活かし、学生の皆さんの協力も得て高島平の活性化に貢献したいと思います。



真鍋陸太郎先生

東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻
都市計画研究室 助教

学科最後の演習となるオムニバス演習は複数の異なる研究室の教員で組んだ課題となります。高島平演習では、中島直人先生、樋野先生と私、さらにアドバイザーとして飯田先生にも加わって頂きました。高島平のプロムナードは歴史、周辺土地利用、自然、コミュニティ、人の動き、など関与する予定です。実は新婚当時この近くに住み、NPOの立場でまちづくり活動を行っていました。その経験とつながりを活かし、学生の皆さんの協力も得て高島平の活性化に貢献したいと思います。



高島平周辺MAP

高島平まちあるきダイジェスト



①板橋区がプロムナードの1つに位置づける高島通り。近隣に緑豊かな空地だが、木々が障害物物流施設があり、交通量も多い。と茂っていつ少々陰気である。
②高島通り南側の緩衝緑地帯。緑豊かな空地だが、木々が障害物物流施設があり、交通量も多い。と茂っていつ少々陰気である。
③2つのプロムナードが交わる交差点。角には廃小学校があり、今後の跡地利用が注目される。族連れでにぎわいを見せる。
④UR団地内には空地が多く広がり、放課後や休日は子供や家族で遊ぶ住居混在エリア。高島平を構成するのは団地だけではない。
⑤高島平の団地の外側に位置する住居混在エリア。高島平を構成するのは団地だけではない。

東大もと“明るし”～東大の御藤元で2プロジェクトが始動！～

New Projects Started near The University of Tokyo!

text_NAKAI/M2

都市デザイン研究室では現在活動しているプロジェクトの他に、今年度以降の本格始動も視野に自主的に活動を行っているグループが存在します。特に今年は今まででありそうで無かった、東京大学の御藤元での活動が活発化してきました。今回はその実態と目標等について報告致します。



谷中PJ

>谷中プロジェクト立ち上げの経緯

東京都心北部を対象とした「東京文化資源区」構想において、文化資源を使いこなして社会課題を解決し、地域のまちづくりに寄与する人材を育成することを目的に位置づけられた「プロジェクトスクール」が、2015年秋に谷中地域を対象に開設されたことを機に、有志が参加して始まりました。

>プロジェクトの今、そして展望

これまでの谷中におけるまちづくりの文脈と現在の課題を踏まえ、4つのテーマを設定してフィールドワークやスタディを行い、月1回ペースで公開会議でのディスカッションをしながら提案活動を行いました。今年度は、有志メンバーでまちづくり協議会での検討・提案や行政との連携等、より具体的なアクションに展開しようとしています。

>プロジェクトの面白み、難しさについて

他大学も含めた学生だけでなく、建築やランドスケープの若手実務家や地域に住む方など多様なメンバーと活動できることは、研究室プロジェクトとは違った醍醐味があると思います。一方で、都市計画道路の見直しや大規模敷地での開発など、現在進行形でのまちの動きへの対応と、将来展望を描くこととのバランスをとりながら進めることは、大変でもありやりがいのあることだと思えます。

>来年度以降の活動に向けて

今年秋から新たなメンバー募集を行う予定です。それまでの期間も有志での活動は継続しています。関心のある方はお気軽にお問い合わせください。 連絡先: sd@ud.t.u-tokyo.ac.jp (D1 土井)

M1 越前あすか
M2 土井 祥子
D1 土井 祥子



M1 三文字 昌也
M2 西谷田 望子
M2 野呂 真央

>本郷プロジェクトが動き出したきっかけ

本郷菊坂のほとりで2015年9月まで営業していた銭湯「菊水湯」の廃業がきっかけ。近くに住んでいた都市工などの東大生と地域の他の団体や企業が協力して菊水湯の記録をいろいろ取ったのですが、それが発展して、菊水湯に限らない本郷の文化資源を対象とするPJになりました。

>プロジェクトの今、そして展望

昨年の菊水湯廃業から9ヶ月、関係者がいろいろ増えています。文京建築会ユースや本学コミュニティ・デザイン・マネジメント研究室(小泉研)のグループ、東京文化資源会議などの方にご参加いただき、7月頭には地域コミュニティスペース「もりばあのいえ」を貸し切ったイベントの開催に至りました。これから東大のお藤元たる本郷でできることを探していくことになります。たくさんある文化資源の記録をどう未来に活かしていくかを考えるのが現時点での目標です。

>プロジェクトの面白み、難しさについて

東大と関わりが深く、多層的な歴史と景観を持つ本郷で、実際の文化資源やキーパーソンとなる方、その活動に関わるプロジェクトです。多くの人に関心を持っていただけるためプレッシャーは大きいですが、まちに埋もれている地域資源や様々な記憶に直接触れる貴重で楽しい機会だと思えます。

>来年度以降の活動に向けて

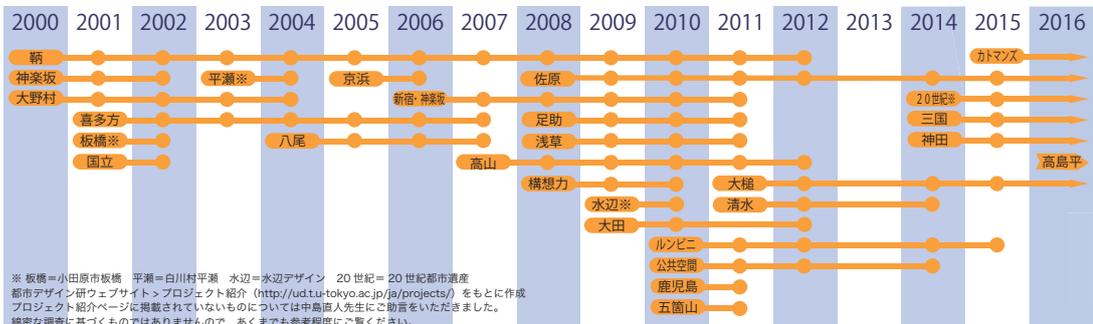
本郷で学ぶ都市工の学生として、最も「近い」まちづくり実践の題材だと思います。興味がある方はどなたでもウェルカムです。すぐご連絡ください。連絡先: 3@ud.t.u-tokyo.ac.jp (M1 三文字)

本郷PJ

コラム: 都市デザイン研プロジェクト年表

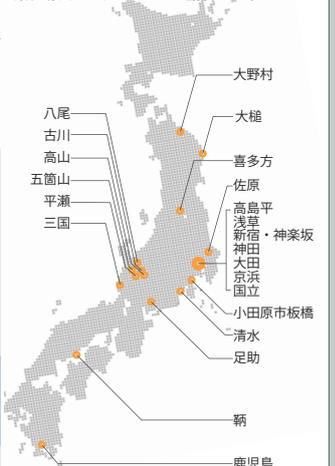
Chronological Table of Urban Design Lab's Projects

過去にはどんなプロジェクトが生まれてきたのか?—今回の取材を通して湧いてきたそんな疑問から、これまでに都市デザイン研が関わっていたプロジェクトのうち主なものを時系列で整理してみました。プロジェクトの歴史が本格的に始まって以来およそ20年の間に幾多のプロジェクトが行われてきたことが見て取れます。これらの記録を丁寧に紐解いてゆくと、今後のプロジェクト運営に対するヒントが得られるかもしれません。



※ 板橋=小田原市板橋 平瀬=白川村平瀬 水辺=水辺デザイン 20世紀=20世紀都市遺産
都市デザイン研ウェブサイト>プロジェクト紹介 (<http://ud.t.u-tokyo.ac.jp/ja/projects/>) をもとに作成
プロジェクト紹介ページに掲載されていないものについては中島直人先生にご助言をいただきました。
綿密な調査に基づくものではありませんので、あくまでも参考程度にご覧ください。

プロジェクト対象地分布
特定の対象地を持たないプロジェクト及び海外で行われているプロジェクトは割愛しました。



高島平プロジェクトに関するお問い合わせ: 中島直人准教授 naoto@ud.t.u-tokyo.ac.jp

Information

編集後記

中村慎吾

去る7月28日、関東甲信地方の梅雨明けが発表され、今年も夏がやってきました。昨年の夏とはえば、院試勉強に疲れた私は伊豆諸島の島々を巡り、のどかな自然に郷愁を誘われていました。高島平団地が誕生してから早半世紀。計画的に造られた巨大な団地はもはや無機質な空間ではなく、人々の営みが確かに染み付いた温かみのある空間でした。団地も故郷と呼ばれる此の頃。高島平プロジェクトの発足に新たな時代の始まりを感じました。

7月のウェブ記事

- 佐原 PJ 佐原高校星輝祭に参加してきました!
- 佐原 PJ 夏の祭
- 神田 PJ 千代田まちづくりサポート 助成決定!
- その他 『都市経営時代のアーバンデザイン』出版打ち合わせ見学

ぜひご覧ください! <http://ud.t.u-tokyo.ac.jp/ja/blog/>

8月の予定

- 7/28-8/5 UEHAS ワークショップ
- 8/1 暑気払い
- 8/22 神田 PJ 神田まち探検
- 8/24-26 日本建築学会大会 @ 福岡
- 8/27 三国 PJ 帯のまち流し